



発問は「点火プラグ」

- ◆ 子供の思考力・判断力・表現力等と発問を自動車に例えると、思考力・判断力・表現力等に当たるのはエンジン。発問は、エンジンに点火し、燃焼サイクルのきっかけをつくる「点火プラグ」の役割を果たします。



- ◆ 国語科の読むことに関する発問では、「いつ・誰が・どこで」など、文章を読めば分かってしまうものばかりであると、子供の考える力は育ちません。

- ◆ 次の事例では、子供たちが自分の考えをまとめ表現するために、教材を繰り返し読む必要が生じる発問を行うことで、思考力・判断力・表現力等を育てています。

【事例1】 小学校第5学年 教材「大造じいさんとガン」

＜発問＞ 第2場面の最初に、「大造じいさんは「ううん。」と、うなっていました。」とあります。作者になったつもりで、第3場面につながるように、一つの段落を書き添えてみましょう。

＜児童の内言例＞ 第1場面の最後でも、「ううむ。」とうなっていたな。第1場面と読み比べながら、第2場面の続きを考えてみよう。

【事例2】 中学校第2学年 教材「走れメロス」

＜発問＞ 題名「走れメロス」の「走れ」とは、誰が言った言葉でしょうか。また、それはなぜですか。

＜生徒の内言例＞ えっ、そんなこと考えたことなかったな。メロスが自分に言ったのかな。それとも……。読み返してみよう。

勤勉精励

実業家 洪沢栄一

何事に当たるにも全力を傾注せよ。勤勉精励は、成功の要素である。

出典：「洪沢栄一 一日一言 人間力を高める言葉」（致知出版社）

※ 義務教育を通して、勤勉の徳を高めたいと切に願います。